

在日外国人の就職の夢助けたい

留学生と企業 橋渡し

小平の小野さん 人材紹介会社を開業

アジアからの留学生の日本での就職という夢を支えようと、日本語教師から職業・人材紹介業に転身した女性がいる。小平市の小野朋江さん(40)は、外

国暮らしの経験から「来日した外国人の手助けをしたい」と日本語教師を志し、留学生の就職難解消に向けて中小企業とつなぐ道を選んだ。(北爪三記)

小野さんは昨年十月、アジアの留学生と中小企業をマッチングする「ASIA Link」(アジアリンク)を小平市で開業した。今年六月末には合同企業説明会を初めて開催。参加した中国

人留学生四人の内定が決まった。「学生は日本語能力試験一級の取得者に限り、事前に希望職種を絞り込んだこともあり、参加企業に『良い学生に会えた』と言ってもらった」と喜ぶ。



「学生の悩みに寄り添っていきたく」と話す小野朋江さん(小平市)

国立音大卒業後、民間企業に勤めていたが、夫の転勤に伴い二〇〇一年から一年間、フィンランドに滞在した。現地で三カ月間、語学教室に通い、日常生活には困らない語学力を習得した。この経験が転機となった。

「言葉を覚えると、霧が晴れるように生活が楽しくなった。外国人の気持ちがかかるのと同時に、言葉を教える仕事の素晴らしさに目覚めたんです」

帰国すると、通信教育で学び、日本語教師の資格を取得。〇四年四月から北区の専門学校で日本語を教え始める。目の当たりにしたのは、日本で働く夢がかなわず、日本に失望して帰っていく留学生

の姿だった。日本語が堪能だった韓国の女子学生は、就職が決まらず「日本に関わりのある仕事をしたい」と帰国していた。試験を受けたのは大企業ばかり。小野さんは「中小企業の情報を得にくいからではないか」と思った。四人目の子どもも出産も契機となり、〇九年に専門学校を退職。コミュニケーションビジネスの起業講座などで学び開業にこぎつけた。

アジアリンクは二、三カ月一度、留学生が企業経営者と接する交流会も開く。十二月に就職情報誌も出す予定だ。小野さんは「面談の練習がしたいと何度も訪ねてくる学生もいる。学生の悩みに寄り添い、地道に一人一人マッチングしていきたい」と話している。